



司法書士
山崎由起子事務所
代表
山崎 由起子 さん
加古川町大野1276-2
TEL：079-454-0372

★山崎さんの会社はこんな会社★
1997年創業以来、「地域密着」「誠実」がモットー。最近では相続登記の相談が増加。明るい笑顔と丁寧な対応でアットホームな雰囲気です。

「何に対しても誠実で」

中学生の頃に、お母さんが相続登記に困っていた時、お世話になった女性司法書士に憧れ、同じ職業を目指し夢を叶えた山崎さん。大学卒業後、神戸の事務所に勤務していましたが、ゆくゆくは生まれ育った加古川で開業を、と考えていました。約1年半後に加古川で開業しましたが、何も無いなかでの顧客獲得は苦労の連続でした。「初めの頃は親戚の相談に乗ることから始めました。なかなか顧客も増えずじけそうなこともありましたが、司法書士の先輩や両親の『長く続けることが大事』というアドバイスを受け、焦らずにやっという腹をくくることができました」と当時を振り返ります。

また、最近では『終活カウンセラー』の勉強もはじめ、相続登記の相談に活かしています。

「子育ても一段落し、今は飼っている2匹のネコが癒しです。昔の写真は子供ばかりですが、最近はほとんどがネコ。この子たちを見ていると仕事の疲れも吹っ飛びます」と笑顔を見せます。

「人生の半分を司法書士として過ごしてきました。仕事にも、人にも『誠実に』いたいと思います。開業した頃からの『地域のために』の思いを忘れず、相談したいと思ってもらえるよう、これからも仕事に精進していきます」

48歳

山崎さんの生まれた1972年（昭和47年）はこんな出来事がありました
・沖縄返還 ・あさま山荘事件 ・パンダのカンカン、ランランが来日（上野動物園）大フィーバーに。



T.R.S design
代表
永見 保 さん
加古川町大野373-7
TEL：079-424-9024

★永見さんの会社はこんな会社★
1995年創業、企業・行政などのチラシ・ポスターから看板・パッケージデザインまで手掛ける。また、市民参加型ポータルサイト「キラリかがわ」も運営、加古川市民の笑顔を撮り続けている

「地元での出会いを大切に」

昔から創作することが好きだった永見さんですが、初めはデザインとは全く違う仕事に就いていました。しかし「これは自分じゃないかな…」と自問自答を繰り返し、導き出したデザインの路。

神戸のデザイナー学校卒業後、就職先に選んだのは大阪のデザイン事務所。そこで腕を磨いていきます。

そして1994年にT.R.S designを開業。インターネット全盛期の2006年には活動拠点を居住地と同じ加古川へ移します。しかし、仕事での知り合いもいない中での事務所移転は正にゼロからの出発。そこで、地域をもう一度見直し、街を見つめ、「まちをデザイン」するきっかけに始めたのが『キラリかがわ』でした。「地域の人々の日常を撮影し、サイトで掲載する。市民に寄り添って日常を切り取ることで自分も輝けました。TRSがお客様のニーズを具現化する仕事なら、キラかこは日々の暮らしを市民目線で表すもの。自分も市民のひとりとして代弁者になれたら素敵ですね。」と永見さんは話します。

プライベートではドローンにハマっている永見さん。「鳥目線で見たい、と思って始めました。紅葉にしても下から見るとは全然違った景色や発見が面白いですね」と笑顔を見せます。

「『やっぱりプロが考えるものは違うな』とお客様に喜んでいただけるものを作りたい。その価値を創造し提供することが我々の仕事ですから。TRSとキラかこの両輪は『地元の出会い』。それをこれからも大切にしていきます」キラリひとの中へ、みんなが笑顔になる未来を！永見さんの想いはいつも無限大です。

60歳

永見さんの生まれた1960年（昭和35年）はこんな出来事がありました
・皇太子夫妻に長男（浩宮徳仁親王：現天皇）が誕生
・森永製菓が日本初のインスタントコーヒーを発売



年男・年女に聞く ～今年の抱負～

新年あけましておめでとうございます。
令和2年です。子年生まれの「年男・年女」の
会員の方に、各年代を代表して今年の抱負等を語っていただきました。



(株)竹一工務店
代表取締役
竹内 一真 さん
志方町志方町2043-1
TEL：079-439-5642

★竹内さんの会社はこんな会社★
2012年創業、新改増築、内外装工事のほか、水廻り工事等も請け負う。名刺の業務内容には『どこに頼んだらいいかわからない工事』の一文も。「困った時にはまずご相談ください」

「チャレンジを忘れず着実に一歩ずつ」

「父がしていた仕事なので、幼い時から『自分も大きくなったらするんや』と思っていました。やってみると、案外この仕事に向いてるんじゃないかなあ、と・・・」この仕事を始めた頃、苦手な営業も経験し、なかなか話を聞いてもらえないなか、「今日最後の一件」と決めてインターホンを押した事業所と見事契約、今でも取引が続いているそうです。

「家に関わる困り事って、どこに頼んだらいいかわからないことってありますよね。ちょっとしたことで、相談していただければ、何とかできる、という自信はあります。私自身で解決できない場合は、知り合いの業者に頼みますが、その時も側にいて作業はしっかりと確認しています」と、『建物の何でも屋さん』を自負します。

「青年部に入会してできた仲間が、最近では仕事上でも繋がるようになりました。普段から食事によく一緒に行きます。仕事と青年部活動の両立はとても忙しいですが、充実した毎日を過ごせています」と笑顔の竹内さん。

「お客様が一番喜ぶ形を実現できるよう努めています。完成した時のお客様の驚く顔、喜ぶ顔を見ると嬉しくなります。お客様から信頼してもらえる『なんでも屋』を目指して頑張ります。今年は年男の節目の年なので、何か新しいことにチャレンジしてみたいですね」

36歳

竹内さんの生まれた1984年（昭和59年）はこんな出来事がありました
・新紙幣発行。肖像画は、1万円札が福澤諭吉、5千円札が新渡戸稲造、千円札が夏目漱石 ・エリマキトカゲが大流行